

柏尾川・八幡山桜コース



1 柏尾川桜並木

江戸時代（1852年）河川改修時に初めて桜の木が植えられたが明治の末期には耕地整理で削られたりした。大正から昭和初期には戸塚から大船に至る両側は見事な桜のトンネルが連なり一躍関東の桜の名所となった。戸塚区の花「桜」のデザインマークはこの柏尾川の桜並木がモチーフ。



4 税務署通り桜並木

正確には旧日立京浜工業専門学校の通学路に作られた桜並木であるが、並木の中に税務署があることから税務署の桜と呼ばれる。桜並木に続き専門学校の法面へと連なっていた桜は、マンションの建設などで少なくなったが今なお風情を保っている。

2 親縁寺 枝垂れ桜、ほたん

一遍上人を開祖とする時宗のお寺で山門は東大の赤門と同じ薬医門が立てられどっしりとした重厚な門構え。約1mの寄木造の阿弥陀像の本尊を祭り、境内には鐘楼や日限地蔵堂を配し、「茂り中日限地蔵の旗つづく」の虚子の句碑が立つ。美しい庭園をもつ戸塚の名刹である。隣接して桜に囲まれた墓地とテンプル斎場がある。



3 ミズキンバイ育生地

ミズキンバイは日本国内にはもともと少なく絶滅危惧種に指定されている。現在、千葉・神奈川・高知・宮崎の4県で確認されており都市河川では柏尾川が唯一である。7月～9月にかけて杯に似た小さな黄色い花を咲かせることからこの名がある。



道案本

道案内 戸塚駅橋上改札口を出て左に進み、右手の階段を下り、左方向に線路に沿って進むと柏尾川。橋を渡らず直進して川沿いの**①柏尾川桜並木**の遊歩道を歩く。人道橋の桜橋を過ぎ、車道のある橋(高嶋橋)に出る。車道を横断し桜並木をさらに進む。約800m先の二つ目の大きなマンションを通り過ぎ、次の大きな工場(石丸高分子精工)と銚子屋の間の道に入り、途中、道が半分位に狭まるがそのまま進むと一般道。右折し約20m進み、右手のマンション(クリオ六番館)前の細い登り坂を左折。正面T字路を右に進むと車道に出る。右折し、三叉路を右に道なりにフェンスに沿って直進すると右手に平成横浜病院の建物が見えてくる。そのまま進み、一般道を左折、約100m 左に**②親縁寺(しんねんじ)**。親縁寺を出て左に進むと国道1号線、横断すると富塚八幡宮。八幡宮を出て左折し国道1号線を進み、信号「八坂神社前」を横断し右折、道なりに進むと再び柏尾川に出る。高嶋橋を渡り左折、川岸に下る。柏尾川の魚影や鳥を楽しみながら歩くと川岸から張り出す中洲が見える。**③ミズキンバイ育生地**である。ステージ状のイベント

5 八幡山桜並木

日立製作所横浜工場の開設(昭和34年)に伴い、社宅や寮の用地として八幡山一帯の開発が進み、その一環で工場を取り巻く八幡山の法面や一帯に桜が植えられた。社宅や寮はマンション化が進んでいるが、今なお多くの桜が残り、柏尾川の桜と共に地域の人々に親しまれている。

6 八幡太袖

八幡大神は東峯(とうのみね)八幡宮とも呼ばれ1114年に創建された。石壇上の椎の大木(横浜市名木古木指定)は源義家の東征の折、休息したとの伝えに因み「白幡の椎」と呼ばれている。参道は長い桜並木となっている。

